

MACF 礼拝説教要旨

2025 年 11 月 2 日

【神は、そのひとり子を】

ヨハネによる福音書 3 章 16-17 節

16 神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。

ひとり子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、

御子によって世が救われるためである。

* * *

ヨハネによる福音書 3 章 16 節は、おそらく新約聖書の中で一番、有名な言葉の一つだと思います。

そして、それには妥当性があると感じます。

神の愛が簡潔に、そして見事に語られているからです。

1) 神は世を愛された・ひとり子をお与えになるほどに

神の愛は常に語られているテーマですが、その愛の深さや重さについてはなかなか実感として伝わってこない面があります。

そもそも愛の深さなど、なかなか測りようが見つかりません。

ヨハネはあえて、「ひとり子をお与えになったほどに」と加えることで

イエスさまの存在が大きくクローズアップされていますが、そこに神様の愛の深さを私たちは感じ取ることができると思います。

「愛された」とありますが、これは「本当に大事な存在、大切な存在と認めており重要で大切な存在としての取り扱いを提供している」という意味です。

そして「ひとり子をお与えになる」という表現ですが、これは当然「御子

イエスさまの存在、その犠牲、死、復活」のすべてを「世のため」いわば

「私たちのために提供された」ということになります。

いいえ、この際「わたしのため」「あなたのため」と理解し、個人、個人、あなた自身のためにひとり子の神が提供されたとうなづいて欲しいと思います。

そこに大きな愛があります。

「神が、御子イエス・キリストをわたしのため、あなたのために、お与えになった」

これはまさに、福音です。

2) 滅びないで

ルカによる福音書 15 章にある

「見失った羊」のたとえ、「無くした銀貨」のたとえ、「放蕩息子」のたとえ、などをモチーフにして考える時、「滅びる」ということの具体的な事例が見えてきます。

* 迷子になる

* 無価値になる

* 放蕩・無駄遣いの人生を送る

というような内容がそこに書かれていますが、これらは「滅びる」という出来事に近いものがあります。

滅びるというのは、天国に入れないとか、地獄に行くというもの、よりもではなく、むしろ、今を

生きている私たちが、この世の人生において * 迷子になる * 無価値になる

* 放蕩・無駄遣いの人生を送ることで「滅び」を刈り取ってしまっていることを教えています。

つまり、イエスさまがきてくださったのは、私たちが天国に行くため、というより

この人生を「目的意識をもち」「自己肯定感を深め」「堅実に人生を歩む」ことが

できるように、私たちの心を変え、生きる姿勢を明確にし、意義深い人生を送らせる

ためなのです。

3) 永遠のいのちを得る

イエスさまの十字架と復活、贖い、犠牲の結果、私たちは神様との和解が成立し

神様を味方にして日々を生きられるようになってきます。

私たちの人生には、さまざまな敵のような困難が押し寄せています。

病気も、災害も、人間関係の分断も、死も、私たちが対応しなければならない現実的な課題です。

「永遠のいのち」が天国に行ってから手に入るものだとしたら、私たちの日常生活に

ほとんど無関係になってしまいます。

永遠のいのち、それは神の臨在であり、神が永遠的に味方になって、私たちと

共にいてくださる確信に基づくものですから、どんな時でも神様の臨在の中で

問題に対応し、目的意識をもち、神様が味方でいてくれることからくる自己安心感、自己肯定感

そして 1 日 1 日を丁寧に生きるための姿勢を味わいつつ、生きられるのです。

永遠のいのちは、今、すでに稼働しているのです。

そういう生き方を励ますためにこそ、神様は御子イエス・キリストをあなたのために

わたしのためにお与えくださいました。

* * * * *

MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/fJ-LBlk7Ay4>